

2017年4月9日

日本ロレンス協会会長 浅井 雅志

日本ロレンス協会副会長 田部井 世志子

会員の皆様におかれましては、お変わりなくご健勝のことと存じます。

さて、2017年度の日本ロレンス協会第48回大会は、倉田雅美先生、石和田昌利先生のご尽力で7月22日(土)、23日(日)に東京の東洋大学白山キャンパスで開催されます。

まず22日は、川田伸道氏の「Mr. Noonにみるセクシュアリティの問題と男性の連帯が示すもの」で幕をあけます。主人公 Gilbert の女性に向ける眼差しが一部と二部では大きく異なっている点に注目し、Gilbert には、本人が隠蔽する暗い性の部分が潜んでいるのではないかという読みを提出されます。続く神徳敦子氏は、ロレンスのセザンヌ論をロジャー・フライとメルロ＝ポンティのセザンヌ論と比較しつつ、後者の「視触覚」の概念を援用して *Women in Love* 等の作品の再解釈を行い、それをもとにモダニズムにおける知覚の組み換えについて考察される。最後の倉持三郎氏は近年、ロレンスが大学ノートに書き綴った押韻詩の写真版を出版されましたが、そこから詩集の出版に至る間での改稿の問題を、“The Piano”を題材にして論じられます。

引き続き、近藤康裕氏の司会・構成によるワークショップ、「D・H・ロレンスと労働（者階級）」が行われます。この大きなテーマにアプローチするために、まず近藤氏が、労働（者階級）の問題を *The Rainbow* がどう表現しているかを読み解かれます。続いて井上麻未氏が、20世紀イギリスの重要な政治家エレン・ウィルキンソンの小説との対比におけるロレンスのゼネラル・ストライキ表象を論じられます。そして最後に加藤彩雪氏が、*Kangaroo* に見られるロレンスの社会主義批判とその裏にある思想を炙り出されます。その後のフロアとの活発な議論が期待されます。

引き続き総会が開かれますが、今回は事務局の移動や協会誌の印刷所の変更、それに伴うさまざまな問題と対策について報告したいと思いますので、多くの会員の出席をお願いいたします。

23日には、武藤浩史氏の司会・構成で、シンポジウム「情動、共感、D. H. Lawrence とその周辺」が行われます。2010年のシンポジウム「ロレンスと情動・感情・運動」との連続性を意識したこのシンポでは、まず遠藤不比人氏が、ロレンスの言語を近代心理学の歴史に位置付けつつ、その「反心理学」について論じられます。続いて、一橋大学からお招きした井川ちとせ氏が、「純粋な情熱的経験」を書き記したロレンスの哲学を「多元的呑気主義」（ロレンスの哲学を揶揄した“pollyanalytics”に岩崎宗治氏が当てた名訳）と取ることを通して、Paul Ricœur の「懐疑主義的解釈 (hermeneutics of suspicion)」の袋小路から抜け出す足がかりを探られます。最後に武藤氏が、*Sons and Lovers* と *The Rainbow* を材料に、情動に備わる言語化に抵抗する身体感覚性について論じられます。ワークショップ同様、この刺激的なテーマについても大いに議論が盛り上がることでしょう。

会員の皆様は、同封の葉書にて、大会・懇親会の出欠を、役員の皆様は併せて役員会（7月22日午前10時半より、東洋大学）の出欠を、**6月10日**までにお知らせいただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

その他、協会執行部より、幾つかのお願いと報告をさせていただきます。

1. 会費納入は同封の郵便振替用紙をご利用ください（手数料は協会負担）。会費は、一般会員は5,000円、役員は10,000円（但し顧問と退職した役員は5,000円）です。

2. 専任職に就いておらず、かつ公的な機関から研究費を受け取っていない日本ロレンス協会会員に対して、日本ロレンス協会大会で研究発表（シンポジウム講師等の担当を含む）をする場合、協会が旅費・宿泊費の補助を行う制度があります。詳細については、学会誌『D. H. ロレンス研究』——2017年の27号では、pp. 94-95——

をご覧ください、ご活用ください。

3. 同封の会員名簿の住所・所属等に変更がある場合は、返信はがきでお知らせください。e-mail アドレスも併せてお知らせいただければ幸いです。

4. 今年の7月3日-8日に London で、LONDON CALLING: LAWRENCE AND THE METROPOLIS THE 14TH INTERNATIONAL D.H. LAWRENCE CONFERENCE が開催されます。Call for papers はすでに締め切られていますが、関心をお持ちの方は D.H. Lawrence Society of North America のHP をご覧になり、参加なさってはいかがでしょうか。わが協会からも何人かが発表される予定です。

それでは、皆さん、7月に東洋大学でお会いしましょう。